



ここ何年か、恐らく中国製と思われるスタンドグラスの小物製品に、「ハンダの所がメッキされておりピカピカなんだけど、どうやっているのか」というお問い合わせが増えておりまして、ほとんどがメッキ工場で大量に加工された物らしいのですが、弊社のカatalogをみますと、P33左下に【81200 めっき工房】なる商品がありまして、実際どれほどのものなのか調べてみる事にしました。

まず、パッケージに付属のメーカーの取扱い説明書を見てみますと、『ハンダ部へのメッキは割と難しい部類で” 困難” …』とありましたが、気落ちせず試してみました。

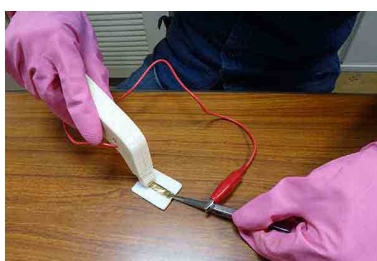
- ①まず、ハンダ付けを終えた後、中性洗剤で良く洗浄します。
 - ②めっき工房に入っている『金属磨き』を布に含ませハンダ部分をピカピカに磨きます。
この時の磨きの程度により仕上げが変わるので念入りに作業して下さい。磨いた後は中性洗剤で丁寧に洗って下さい。
※この工程以後は、油等の付着を防ぐためにゴム手袋かピンセットを使用して作業して下さい。
 - ③『脱脂液』を本体のフェルト筆先にたっぷり染み込ませて、赤いリード線の先端のクリップでピンセットをはさみます。ピンセットをハンダ部につけて接点をとりながら、フェルト筆先をハンダに軽く押し当て前後左右に動かし続けます。白い細かい泡が出て、目に見えない油を取り除いていますので、接点を変えながら全面十分に脱脂します。【写真図：1】
⇒以上、ここまでの作業が非常に大事で、仕上げに違いがでますので時間を掛けて行って下さい。
 - ④脱脂作業をしたフェルト筆先をニッケル用（ニッケル液がグリーンなので筆先もグリーンの物を使う）に取り替えて『ニッケルめっき液』を染み込ませ、脱脂作業同様に筆先を絶えず動かしながらかめっきをします。※筆先を静止させたままにすると、黒っぽい色合いになる事があります。【写真図：2】
 - ⑤同様に黄色の筆先に取り替えて、『金めっき液』をたっぷり筆先に染み込ませて金メッキしていきます。
※めっき後、十分に水洗いしてから乾燥して下さい。やわらかい布か脱脂綿で、軽く丁寧に磨くと一層光沢のある金メッキになります。
- 【ポイント】・十分な量のめっき液を使用してめっきして下さい。めっき液はフェルトに補給するだけでなく、めっきしようとする面の上にも滴下させてめっきして下さい。**

作業を終えてみて、工場の設備でメッキした様な金ぴかではありませんが、簡易キットにしては良い色味になったと思います。ご興味の湧いた方は、是非ご注文を宜しく願います。

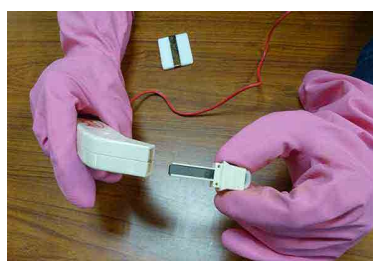
↓写真図がありますので、ご参照してください。

【めっき工房について】

めっき工房は、乾電池を使用した電気による化学反応によりめっきする、めっき槽や電源を必要とする設備は不要な簡易めっき用具です。めっき工房のめっき液は、毒劇物取締法の対象には該当しませんので安心してご使用できます。メーカーには、オプションで白金めっき・すずめっき・18Kめっき・黒ニッケル液などがございます。



【写真図：1】



【写真図：2】



by 神田 大輔